



# 大選挙区初の町議戦

十月二十七日(日)午前七時から大選挙区制による初めたる入善町議会議員選挙が、九投票区一せいで行われた。

当日は、小雨模様、悪天候であったが、二十四名の議員候補者があり、二十三名の立候補者があり、競争がはげしかったため、投票率は非常に高く、九一・二六四、最高青木地区九五・六四四という高率を示した。

同日午後六時に投票を終り、八八時から中央公民館ホールで開票が行われた。開票の結果は、次のとおりである。

| 投票の内訳  | 得票数    | 氏名   | 年齢 | 所属党 | 新旧 | 地区  |
|--------|--------|------|----|-----|----|-----|
| 有権者数   | 一六、三〇九 |      |    |     |    |     |
| 投票者数   | 一四、八七六 |      |    |     |    |     |
| 内不在投票者 | 九三六    |      |    |     |    |     |
| 有効投票者  | 一四、九四〇 |      |    |     |    |     |
| 無効投票者  | 一四、一六六 |      |    |     |    |     |
| 外不在投票者 | 一、七〇一  |      |    |     |    |     |
| 不在投票者  | 九一・二六% |      |    |     |    |     |
| 投票率    | 九一・二六% |      |    |     |    |     |
| 当選     |        |      |    |     |    |     |
| 古谷常三   | 九〇     | 細田睦夫 | 三九 | 無所属 | 新  | 飯野区 |
|        | 八五     | 伊藤正三 | 四三 | 共新  | 新  | 飯野区 |
|        | 五九     | 岩田隆三 | 四七 | 共新  | 新  | 飯野区 |
|        | 五八     | 伊藤順三 | 四七 | 共新  | 新  | 飯野区 |
|        | 五八     | 岩田隆三 | 四七 | 共新  | 新  | 飯野区 |
|        | 五八     | 伊藤順三 | 四七 | 共新  | 新  | 飯野区 |
|        | 五八     | 岩田隆三 | 四七 | 共新  | 新  | 飯野区 |
|        | 五八     | 伊藤順三 | 四七 | 共新  | 新  | 飯野区 |
|        | 五八     | 岩田隆三 | 四七 | 共新  | 新  | 飯野区 |
|        | 五八     | 伊藤順三 | 四七 | 共新  | 新  | 飯野区 |

## 新町議諸氏に贈る



古谷 常三

記念すべき昭和二十八年十月一日、県下最大の町として誕生したわれらの入善町は、早くも合併四周年を迎え、十月二十七日合併第三回町議会議員選挙を執行いたしました。則ち選挙の結果、二十四氏が衆議院議員に立候補され、われら入善町を一身に背負った月桂冠を得られたのであります。皆様のご感激は如何ばかりであらう。私は、尚ほ地方自治法に制定されて

## 昭和31年度予算及び決算

| 入         | 歳入      |         | 増減(△は減) |
|-----------|---------|---------|---------|
|           | 最終予算額   | 決算額     |         |
| 町         | 84,192  | 86,317  | 2,125   |
| 地方交付税     | 15,569  | 15,904  | 335     |
| 公営企業・財産収入 | 2,934   | 2,935   | 1       |
| 分担金・負担金   | 1,269   | 683     | △ 586   |
| 使用料・手数料   | 4,157   | 3,756   | △ 401   |
| 国庫支出金     | 16,242  | 13,453  | △ 2,789 |
| 県庫支出金     | 14,005  | 7,306   | △ 6,699 |
| 国庫寄附      | 690     | 1,162   | 472     |
| 雑収入       | 2,111   | 3,134   | 1,023   |
| 町役及合計     | 243,649 | 237,130 | △ 6,519 |
| 歳入合計      | 243,649 | 237,130 | △ 6,519 |

(町税の収入未済高 3,345,267円)

| 出    | 歳出      |         | 増減(△は減) |
|------|---------|---------|---------|
|      | 最終予算額   | 決算額     |         |
| 議場   | 1,697   | 1,658   | 39      |
| 消防   | 22,137  | 21,829  | 308     |
| 土木   | 8,432   | 8,403   | 24      |
| 教育   | 7,950   | 7,565   | 385     |
| 社会福祉 | 26,739  | 26,494  | 245     |
| 健康   | 15,705  | 15,647  | 58      |
| 産業   | 2,248   | 1,952   | 296     |
| 経済   | 36,775  | 33,508  | 3,267   |
| 調査   | 3,382   | 3,348   | 34      |
| 計    | 197     | 193     | 4       |
| 債    | 416     | 376     | 40      |
| 借    | 11,215  | 10,987  | 228     |
| 諸支   | 106,748 | 105,158 | 1,590   |
| 出費   | 10      | 10      | 0       |
| 歳出合計 | 243,651 | 237,123 | 6,528   |

| 種      | 昭和31年度特別会計予算及び決算 |        | 額     |
|--------|------------------|--------|-------|
|        | 歳入決算額            | 歳出決算額  |       |
| 国民健康保険 | 36,597           | 32,373 | 4,224 |
| 町営診療所  | 4,297            | 4,009  | 288   |

直接でおられて、町民の意思の機微をよく知っておられる。皆様のご協力を、更に実践に移さすべく、悪いものは積極的に取り除いて下さい。『あまご』の自主独立を尊重し、積極的な活動を促すことになり、議員定数を減じ、小教有能の逸材を、広く町全体に求めたこと、これに大いに意義があり、皆様は、この機会を、よく活用して、入善町の発展に、一歩を踏み出すことになり、合併四周年を迎え、十月二十七日合併第三回町議会議員選挙を執行いたしました。則ち選挙の結果、二十四氏が衆議院議員に立候補され、われら入善町を一身に背負った月桂冠を得られたのであります。皆様のご感激は如何ばかりであらう。私は、尚ほ地方自治法に制定されて



米の出あしは昨年よりも好調で、十月二十二日現在の山(入善農協倉庫前の光景)

## 町政

1. 町教育委員の任命に關し同意を求めた件  
2. 町立保育所設置(横山)の件  
3. 都市計画部上町君島員一五、延長三三四  
4. 町職員給与に關する条例一部改正の件  
5. 町議会議及び町教育委員等に對する報酬及び費用弁償の支給に關する条例一部改正の件等  
臨時町議会  
十月十日臨時町議会議決  
十一月十日臨時町議會議決  
三十一年度決算認定

## 入善・横山線

十一月三日に入善・横山間の地鉄パスが開通する。このパスは、一日四往復するものであるが、うち一本は横山通り沿いの入善駅まで延伸される。入善町長米沢元徳、入善町長米沢元徳、主事 竹内慎一郎、主事 森 榮殿

## 米予約超過四千石

米の出あしは昨年よりも好調で、十月二十二日現在の山(入善農協倉庫前の光景)

## 国稅の話

税金が軽減になる資産の再評価を行います。申告期限33年3月15日。魚津税務署長...

## 教委に

谷さんを再任  
任期一年であった教育委員の任期が満了したため、九月三十日の町議会で、米沢町長は、各議員にお願いして、米沢町長は、谷さんを再任する旨の議案を提出し、その結果、谷さんを再任することになった。

## 新築と入札

横山地区に保育所を建設することになり、十月七日に、入札の競争入札を行った。その結果、二六三万八千円で、米沢工事が落札した。

## 表彰状

君は多年本町役場に勤務し、その間社会教育に努め、忘れたことなき熱心な活動に心血を注がれ、今、この機会に、君の勤めに対する表彰状を贈ることにした。昭和三十一年十一月一日、入善町長米沢元徳、主事 竹内慎一郎、主事 森 榮殿

# 黒四冷水問題の焦点

鬼原文二

黒四冷水問題の焦点は、黒四谷電力株式会社が、黒四谷御前沢に建設中の、黒四第四発電所から伴う七千町歩の用水に、黒四の冷水問題について、先に従事員が町報に上った。この重大性を痛感せられたので、町民の間に大きな反響を呼んだようである。反響にこれに関連して、町報の動きが新聞紙上を賑わしていることも注目される。

この問題は要約すると、高さ一八〇M余の大ダムを築き、その満水面から六〇M下で取水口を設けた場合、発電所を通じて下流に引き出される水の温度は、ダム築造以前に比べて低下するからか、また、それががらんがらん水にどの影響を及ぼすか、これが対象は如何にすべきかという点である。

黒では、昨年八月間西電力に工事認可を与えられた際して西電力に設計変更を要求し、

一、ダムの水面下六〇Mから取水することをやめ、ダムの表面水を取り入れることになっているが、北陸電気がこれに表面取水設備を設計しないうちに、黒四ダムは、表面水と混合を条件として許可したが、電力にはこれにまわって、黒四の冷水問題が、やれないことと決している。

二、猫又、愛本各発電所の放水が、黒四本流と混合しないよう分離すること、電力にはこれにまわって、黒四の冷水問題が、やれないことと決している。

三、猫又、愛本各発電所の放水が、黒四本流と混合しないよう分離すること、電力にはこれにまわって、黒四の冷水問題が、やれないことと決している。

四、黒四ダムは、表面水と混合を条件として許可したが、電力にはこれにまわって、黒四の冷水問題が、やれないことと決している。

五、黒四ダムは、表面水と混合を条件として許可したが、電力にはこれにまわって、黒四の冷水問題が、やれないことと決している。

## 北陸線が生れ変わる

### 黒煙90年に終符

入善駅長 橋本 憲雄

この日本一の北陸トンネルも、数年後には日本の誇りを失うことになるといふのは、我々北陸人にとりては、誠に恐ろしいことである。この北陸トンネルは、戦前、戦中を通じて、日本の交通の要路として、重要な役割を果たしてきた。しかし、戦後、このトンネルは、黒煙の害に悩まされ、その利用が制限されてきた。現在、このトンネルは、黒煙の害から解放され、再び日本の交通の要路として、重要な役割を果たすこととなる。

このトンネルは、戦前、戦中を通じて、日本の交通の要路として、重要な役割を果たしてきた。しかし、戦後、このトンネルは、黒煙の害に悩まされ、その利用が制限されてきた。現在、このトンネルは、黒煙の害から解放され、再び日本の交通の要路として、重要な役割を果たすこととなる。

このトンネルは、戦前、戦中を通じて、日本の交通の要路として、重要な役割を果たしてきた。しかし、戦後、このトンネルは、黒煙の害に悩まされ、その利用が制限されてきた。現在、このトンネルは、黒煙の害から解放され、再び日本の交通の要路として、重要な役割を果たすこととなる。



（松平良氏の等々の生）

## 家畜共進会

- 出品数は、一五八頭であつた。その内訳は、和牛の肥育五二頭、全産牛九頭、乳牛の経産牛九頭、全産牛一頭、馬一頭、豚一頭、肉豚二頭、山羊一頭、めん羊九頭、種鶏二〇羽であつた。
- 受賞者
- 肥育者
    - 特等 青木 松平 良
    - 一等 須原 竹松
    - 二等 須原 竹松
    - 三等 須原 竹松
  - 乳牛(産乳)
    - 特等 須原 竹松
    - 一等 須原 竹松
    - 二等 須原 竹松
    - 三等 須原 竹松
  - 豚
    - 特等 須原 竹松
    - 一等 須原 竹松
    - 二等 須原 竹松
    - 三等 須原 竹松
  - 山羊
    - 特等 須原 竹松
    - 一等 須原 竹松
    - 二等 須原 竹松
    - 三等 須原 竹松
  - めん羊
    - 特等 須原 竹松
    - 一等 須原 竹松
    - 二等 須原 竹松
    - 三等 須原 竹松
  - 種鶏
    - 特等 須原 竹松
    - 一等 須原 竹松
    - 二等 須原 竹松
    - 三等 須原 竹松



家畜共進会の一面—めん羊の審査

あさ朝の山羊乳しぼる三十年このリズムに  
も感ごびを持つ  
伊勢路来てここも小降りの続くま中社垣に  
おふれし吾を思ひをり名月幼時の記憶  
なだめてようやく読ますリダ女生徒とい  
と笑つても少ししつ知る  
つを前に此れる我がその昔の母の音響を  
いかに似似る  
眼の首彫りしハイアの土壁も黒煙キャン  
の逢ちやん帰りの  
午後の陽のみじかくよがる中庭に早も青め  
のローパー一歳

入善短歌金詠草

選者時  
昔もなく海女が降りぬ梅雨の海  
長梅雨の上りし離子開きけり  
灯して蛙の中の家の一つ  
おのすから眼りに入るや選蛙

入善短歌金詠草

あさ朝の山羊乳しぼる三十年このリズムに  
も感ごびを持つ  
伊勢路来てここも小降りの続くま中社垣に  
おふれし吾を思ひをり名月幼時の記憶  
なだめてようやく読ますリダ女生徒とい  
と笑つても少ししつ知る  
つを前に此れる我がその昔の母の音響を  
いかに似似る  
眼の首彫りしハイアの土壁も黒煙キャン  
の逢ちやん帰りの  
午後の陽のみじかくよがる中庭に早も青め  
のローパー一歳

見が強つたという話である。この話の背景は、黒四の冷水問題と関係がある。冷水問題の解決は、黒四の冷水問題を解決する上で重要な役割を果たすこととなる。

冷水問題の解決は、黒四の冷水問題を解決する上で重要な役割を果たすこととなる。

冷水問題の解決は、黒四の冷水問題を解決する上で重要な役割を果たすこととなる。

